

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成 25 年 4 月 30 日現在

機関番号：16301

研究種目：基盤研究(C)

研究期間：2010 年度 ～ 2012 年度

課題番号：22520717

研究課題名（和文） 中国南北朝時代の墓誌銘と造像記の接点—妻子・門弟の文末記録から閨閥を追う—

研究課題名（英文） Contact of Epitaph and Statue Symbol of China Northern and Southern Dynasties. – Follow the clan from endnote record of Wife , children and disciple. –

研究代表者

東 賢司 (HIGASHI KENJI)

愛媛大学・教育学部・教授

研究者番号：10264318

研究成果の概要（和文）：

中国での実地調査や文献収集の結果、墓誌や仏像等の石刻資料に刻まれた文字資料を収集し、すべてをデジタルデータ化した。その結果、1700 件、94 万字の文字データを得た。この中には、女性を埋葬する時に作成された資料が約 350 件ある。これらには、①夫人の記録、②息子の記録、③娘とその嫁ぎ先の記録、④息子の夫人とその子供の記録の四種類があり、閨閥構築に利用された。また国境をはさんで対立していた南朝と北朝間には、両国の国境の都市でも婚姻が行われた。

研究成果の概要（英文）：

Result of collecting documents and field research in China, collect the Character data carved in stone carving materials of Buddha and epitaph, I have digitized all. Some of this, is about 350 a document that was created when you bury the woman. There are four types of record, ①Record of his wife, ②Record of son, ③Record of the marriage destination and daughter, ④Record of the children and wife of son, it was used to build clan. In addition, between the Northern and Southern Dynasties that was in conflict across the border, marriage was also made in the city of the border between the two countries.

交付決定額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2010 年度	1,400,000	420,000	1,820,000
2011 年度	1,200,000	360,000	1,560,000
2012 年度	500,000	150,000	650,000
年度			
年度			
総計	3,100,000	930,000	4,030,000

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：史学・東洋史

キーワード：中国 南北朝 石刻 墓誌 造像記 婚姻 妻子 門閥

1. 研究開始当初の背景

墓誌の出土地と造像記の残される地域は、山東・河南・陝西に多く、当時の人の営みか

ら考えると、同じ人物が種々に関連していたという指摘があってもよいはずである。ところが、二者の連関を指摘する部分には「墓誌

は儒教的色彩が強い者が作成し、造像は仏教的な信仰が強い者が作成した」という指摘がある。しかし、例えば、北魏の元祐は当時の支配者の一族におりながら、龍門石窟の開鑿に協力しその名を刻んでいる。なぜこのような指摘がなされているかという点、墓誌と『北史』、造像記と『魏書』というような、出土資料と文献比較を行うことが主流になり、石刻出土資料間の横断的観察が行われていないことにも原因があると思われる。これは文献資料の整理及び検索等の整備の速さに比べて、出土資料全体の資料分析が遅れているということも原因である。

2. 研究の目的

南北朝時代の墓誌資料には妻子の記録が多数残され、造像記には門弟の記録が残されている。従来墓誌は儒教的要素が、造像記は仏教的要素が強いと指摘されていた。これらを横断的に見てゆくと、墓誌・造像記を跨いで同一人物と思われる者の記録が見られる等、多くの共通点が見つかった。

この研究では、墓誌銘及び造像記を完全にデジタル化し、構造統計法等による人の重複調査及び、複数の家系を集合体とし関連づける新たな系図作成を行う。これらを通じて、女性・子供・僧侶など従来あまり注目されていない人間の関係を描き、石刻資料間の関連性を追う。

3. 研究の方法

(1) 資料収集

- ・現地調査の他、石刻資料の専著や出土報告書・拓本資料から必要資料を抜き出し、デジタル化を実施。
- ・データベースには、文献・遺址・出土物・積文などのテーブルにそれぞれ5～20程度の細目を設けて記入。

- ・現地調査（河南省、山東省、陝西省、四川省、河北省）

- ・石刻資料の専著や出土報告書・拓本資料から必要資料を抜き出し、デジタル化を実施。

- ・中国北京で新出土資料の収集を行い、石刻資料の専著や出土報告書・拓本資料から必要な情報を抜き出し、デジタル化・データベース化を実施。

(2) 石刻資料の女性の記録の全容の解明

- ・石刻資料の内、墓誌銘にのみ妻子等の女性に関する記録が刻されている。石の裏面等に夫人や子供の氏名・年齢ばかりでなく、夫人の出身地、夫人の父親の名や官職、女子の子供の場合は、その嫁ぎ先まで詳細に記述され、一資料のみで複数の家系図が描けることがある。

- ・女性の墓誌も多数出土している。女性の記録は歴史的文献に登場することは少なく、新しい情報を得られる資料である。

(3) 収集資料の可視化

- ・収集した資料中の婚姻関係を丁寧に観察すると、歴史書等では確認できない地方豪族間の婚姻が確認できる。

- ・東晋の時代からの南朝漢族と北魏を中心とする北朝胡族は戦闘状態にあるが、その通婚による繋がりを明らかにする。

4. 研究成果

(1) 資料数等

中国での現地調査の他、石刻資料の専著や出土報告書・拓本資料から必要な情報を抜き出し、デジタル化を実施した。データベースには、文献・遺址・出土物・積文等のテーブルを作り、それぞれ5～20程度の細目を設けた。北朝造像記資料が約500件、北朝墓誌資料約1650件であり、資料の文字数の総量は94万字となった。

(2) 資料分析

① 資料の可視化

また、文献資料と上記の石刻資料をもとに、系図化を行った。元氏や漢族の中から約 2,000 名の人物の家系を明らかにし、可視化することができた。

② 女性資料の分析

また、石刻資料の女性記録の分析を行った。石刻資料の内、女性の墓誌銘を重点的に分析した。数量は、約 350 件確認できた。女性の氏名等の詳細な記録は、史書等の歴史的文献に登場することは少なく、これらは新しい視点で分析するための資料とすることができる。石刻資料の内、墓誌銘・造像記にのみ妻子等の女性に関する記録が刻されている。石の裏面等に夫人や子供の氏名・年齢ばかりでなく、夫人の出身地、夫人の父親の名や官職、女子の子供の場合は、その嫁ぎ先まで詳細に記述され、一資料のみで複数の家系図が描けることがある。350 件の資料でも平均 4 名の情報を得ることができた。造像記と墓誌銘に共通する姓名が見られる者も散見された。

③ 婚姻の記録

次に、石刻資料に見られる婚姻の記録について検討を行った。墓誌を中心とする石刻資料には、男性の場合は妻子の氏名等を記録することが多い。また、女性の石刻資料からも子の記録を得ることができる。これらの記録の習慣は、西晋以降に徐々に拡大していったと思われるが、更に細かく分類すると、a 夫人の記録、b 息子の記録、c 娘とその嫁ぎ先の記録、d 息子の夫人とその子供の記録の四種類に分けることができ、他氏族との繋がりを探る有力な情報元と言えることを再確認できた。これらの記録を有する資料は、300

件を超え、全資料の 2 割を超える。その中には、南朝と北朝の婚姻があり、両国の国境の都市である複数の都市を中心に、その傾向が確認できた。また、南朝の技術や文化の影響を受けたものとしては、墳墓の構成や副葬品にも見られ、一見対立する国通しであっても、文化の交流は継続的に行われている事実が確認できた。

④ 常景と門閥

また、門閥に関して、北魏から東魏に関して活躍した常景という人物を中心に、その中央省に所属した人物の関係性について検討を行った。この省では門閥や親しい人物の子弟で文章能力に長けた人物を抜擢し属官としており、閥閥作りの実際が明らかにできた。

(3) 研究の位置づけと今後の展望

本研究の成果は、全国大学書道学会で 3 年間連続して行い、石刻資料の可能性を共有することができた。また、研究成果を発信する HP やブログにも多くの連絡を受けた。今後の展望としては、新出の資料を常に加えつつ、特に特定の人物に視点をあてて、その生涯を追跡することにより、より複雑な人的な関係が把握できる可能性がある。文献資料と出土資料の記述内容の齟齬についても検証の必要性を感じている。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計 11 件)

① 東賢司、北魏墓誌銘と造像題記の接点—洛陽龍門第一四四三窟を利用して—、大学書道研究、査読有、4 号、2011、71-82

② 東賢司、北魏墓誌のグループ化と居住・埋

葬地、愛媛大学書道研究、査読無、1号、2011、1-25

③東賢司、魏晉南北朝墓誌の形式についての試論-正方形の有蓋墓誌が完成する過程を追って-、愛媛大学書道研究、査読無、第1号、2011、26-34

④東賢司、墓誌の銘文中に見る南北朝時代の婚姻の記録について、愛媛大学書道研究、査読無、第1号、2011、35-47

⑤東賢司、北齊隸書墓誌銘の起源-相州に関連する人物を手がかりとして-、大学書道研究、査読有、5号、2012、73-84

⑥東賢司、魏晉南北朝時代の男性の墓誌の書に関する検討、愛媛大学書道研究、査読無、第2号、2012、1-28

⑦東賢司、魏晉南北朝時代の女性の墓誌の書に関する検討、愛媛大学書道研究、査読無、第2号、2012、29-41

⑧東賢司、北朝墓誌の作製と中央省官の関連性-中書舎人 常景を端緒として-、大学書道研究、査読有、6号、2013、53-64

⑨東賢司、墓主の官位と墓誌の大きさ、愛媛大学書道研究、査読無、第3号、2013、1-56

⑩東賢司、墓誌の作者、愛媛大学書道研究、査読無、第3号、2013、57-65

⑪東賢司、墓誌に見られる婚姻の記録、愛媛大学書道研究、査読無、第3号、2013、66-76

[学会発表] (計3件)

①東賢司、北魏墓誌と造像記の接点-洛陽龍門第一四四三窟を利用して-、全国大学書道学会、平成22年10月2日、北海道教育大学旭川校

②東賢司、北齊隸書墓誌銘の起源-相州に関連する人物を手がかりとして-、全国大学書道学会、平成23年9月18日、茨城県立県民文化センター

③東賢司、北朝墓誌の作製と中央省官の関連

性-中書舎人 常景を端緒として-、全国大学書道学会、平成24年10月8日、京都教育大学

[図書] (計1件)

全国大学書道学会、光村図書、書の古典と理論、2013年、1-175

[その他]

ホームページ等

<http://www.geocities.jp/youshinden/>

6. 研究組織

(1) 研究代表者

東賢司 (HIGASHI KENJI)

愛媛大学・教育学部・教授

研究者番号：10264318